

姉妹都市提携への道のり



姉妹都市提携調印式（1990年）

「シベリア博」を機に友好関係

1974年（昭和49年）札幌市で「シベリア博」（主催：北海道、札幌市、北海道新聞社）が開かれた。7月20日から8月11日にかけて3週間開かれた博覧会は、多くの市民の関心を集め、約17万人の来場者があった。展覧会ではシベリアの豊かな自然環境や石油コンビナートなど大規模な開発の様子が展示され、シベリアの中心都市としてノボシビルスク市も紹介された。

この動きを受け、市民団体が中心となって、札幌市と歴史、規模や地域の中心地であるなど共通点の多いノボシビルスク市と市民レベルでの交流が始まり、1984年（昭和59年）桂助役（当時）が札幌市の特別職としてはじめてノボシビルスク市を訪問、同年ノボシビルスク市オレイニコフ助役が来札した。さらに、翌年には両市長の相互訪問が実現した。行政レベルでの交流の他、芸術・文化、スポーツ、青少年交流など各分野にわたって着実に交流実績が積み重ねられ、ホームステイの実現など市民レベルでの交流も拡大していった。また、1980年代後半のソビエト連邦でのペレストロイカの進展も、近くて遠いイメージが強かった日ソ両国の関係を縮める追い風となったといえる。

こうした市民交流の活発化を背景に、1989年（平成元年）5月、札幌市議会で両市の友好促進決議が採択された。さらに、1990年（平成2年）3月には、札幌市議会が「姉妹都市提携に関する決議」を採択。翌4月には、ノボシビルスク市議会においても採択され、両市の姉妹都市提携が承認された。

インディノク市長を迎え提携調印

1990年（平成2年）6月、インディノク・ノボシビルスク市長（当時）、レーピン・ノボシビルスク国立教育大学学長、フロロワ・ノボシビルスク・札幌友好協会会長ら6人のノボシビルスク市代表団が姉妹都市提携調印のため来札。13日、札幌グランドホテルにおいて、板垣札幌市長（当時）とインディノク市長との間で「提携盟約書」と「両市間交流に関する覚書」が調印され、記念として、札幌市から日本人形2体、ノボシビルスク市からクロテンの剥製壁掛の記念品交換が行われた。

また、この調印式の席上、北海道教育大学札幌分校と、ノボシビルスク国立教育大学の間で、研究者の相互派遣や共同研究などを目的にした交流協定も結ばれた。

同年8月、ノボシビルスク市代表団に対する答礼を目的に、市議会代表団と経済調査団の札幌商工会議所の代表も含めた板垣市長を団長とする総勢22人の札幌市訪問団がノボシビルスク市を訪れた。21日、子供劇場前の公園で両市長により記念植樹が行われた後、提携記念式典では、約300名のノボシビルスク市民が見守る中、両市長により「姉妹都市間友好と協力の発展に関する声明書」が調印され、板垣市長に外国人として初めてノボシビルスク市名誉市民の称号が授与された。併せて、提携記念式典の席上、札幌国際交流プラザとノボシビルスク100年基金財団の提携調印が行われた。

その後、覚書に盛り込まれた30項目の具体的な交流プログラムに基づいた広範囲に渡る交流事業が実現され、これらの事業をきっかけに様々な分野・レベルでの交流が活発化した。



ノボシビルスクのメインストリート

特徴ある姉妹都市交流

ノボシビルスク市は、アメリカ・ポートランド市、ドイツ・ミュンヘン市、中国・瀋陽市に続く4番目の姉妹都市であるが、それまでの姉妹都市提携と比較して、いくつかの大きな特色がある。

まず、他の三都市の場合、縁組の話が持ち上がり、正式に提携調印を行う頃から市民同士の友好が深まっていたが、ノボシビルスク市との縁組は、これとは対照的に、地道な交流の積み重ねによりある程度の実績を積み上げ、交流発展の可能性を見極めた上で調印に至ったという点があげられる。

もう1つは、交流を促進するため、高い目標が掲げられたということがあげられる。当時、ソ連の都市との交流を長続きさせるのは、政治体制の違いなど様々な事情から難しいと考えられており、事実、日本とソ連の姉妹都市は交流が停滞しているものが多く見受けられる状況であった。そこで、札幌から遠く離れ、市民にもまだあまり馴染みのなかったシベリアの街とあえて姉妹都市になるからには、次の2つの目標を持つということになった。1つめは、両国間における姉妹都市交流の手本となるような関係を目指すこと。2つめは、3つの先輩姉妹都市との交流レベルにできるだけ早く近づこうということ。これらの目標を実現するため、提携調印書と同時に、文化、学術、経済、青少年・スポーツなど、30項目に及ぶ交流拡大に関する

覚書が両市長の間で交わされた。結果として、この覚書が交流拡大の起爆剤となり、その後市民レベルの交流が着実に根づいていった。

これからの交流拡大に向けて

1990年(平成2年)の提携当時は、ソ連という国を抜本的に改革しようと現れた若き指導者ゴルバチョフ氏が世界の注目を集めていた時代であったが、それから僅かの間に、ソ連そのものが消滅、そしてロシア連邦の誕生と、社会経済体制が大きく変わる歴史的な過渡期を経験した。これに伴う混乱の中で、両市の姉妹都市交流にも少なからず影響があったと言える。特に、長引く経済の低迷により、特に経済分野を中心とした交流は残念ながら提携当初ほどの活発さは見られない状態が続いていた。

しかし、提携以来、文化、芸術、スポーツ、青少年施策、語学などの分野での交流が途切れることなく継続し、時代の交流を担う人材も育成されつつある。

今後は、これまでの姉妹都市交流の成果を尊重しつつ、相互に関心のある分野での情報交換を進め、両市の交流の発展と新たな交流の促進を目指していく。



ノボシビルスク誕生記念公園



交流の足跡

～ 提携前 ～

1974年(昭和49年)

7～8月 ▶北海道立産業共進会場で開催された「シベリア博」(主催:北海道、札幌市、北海道新聞社)にノボシビルスク市から参加。

1976年(昭和51年)

8月 ▶藤間琴苑日本舞踊団一行45名が公演のため、ノボシビルスク市を訪問。

1979年(昭和54年)

▶日ソ協会札幌支部代表団20数名がノボシビルスク市を親善訪問。

1981年(昭和56年)

8月 ▶日ソ協会札幌支部代表団22名がノボシビルスク市を親善訪問。

1984年(昭和59年)

4月 ▶ハバロフスク市で開催された「第1回日ソ極東北海道友好交流会議」参加の際、桂札幌市助役が初めてノボシビルスク市訪問。

5月 ▶ノボシビルスク市民45名を含むソ連訪日観光団300名が来札。

10月 ▶サハリ州姉妹友好都市代表団の一員としてノボシビルスク市オレイニコフ・ノボシビルスク市助役が来札。

1985年(昭和60年)

6月 ▶札幌で開催された「第2回日ソ極東北海道友好交流会議」にチキニョフ・ノボシビルスク市長、ボーコフ・ノボシビルスク州知事、市民など10名が来札。ノボシビルスク市の子供の絵45点を持参し、札幌市役所ロビーで展示会開催。

7月 ▶板垣札幌市長一行4名がチキニョフ・ノボシビルスク市長の招待により訪問。札幌の子供の絵50点を持参し、ノボシビルスク

市立絵画ギャラリーで展示会開催。

8月 ▶札幌大学ソ連親善旅行団16名がノボシビルスク市を訪問。

9月 ▶ノボシビルスクアンサンブル札幌公演。

1986年(昭和61年)

8月 ▶北海道日ソ親善協会主催第1回ノボシビルスク友好訪問団(団長:山崎七郎市議会副議長)15名がノボシビルスク市を訪問。

11月 ▶オレイニコフ・ノボシビルスク市助役およびノボシビルスク・オペラ・バレエ劇場バレエ団16名が来札。

▶ノボシビルスク・オペラ・バレエ劇場バレエ団と小沢輝佐子舞踊団が、札幌市及びノボシビルスク市にて日ソ合同公演開催。

1987年(昭和62年)

4月 ▶日ソ協会北海道連合会主催訪ソ親善視察団125名のうち65名がノボシビルスク市を訪問。

9月 ▶「第3回日ソ極東北海道友好交流会議」に参加した桂札幌市助役が部門別地方都市会議でノボシビルスク市を訪問。

▶ノボシビルスク・オペラ・バレエ劇場バレエ団と小沢輝佐子舞踊団がハバロフスク市にて第3回日ソ極東北海道友好交流会議記念合同公演を開催。

10月 ▶両市の動物園間で動物交換

【札幌市→ノボシビルスク市】

・ニホンザル5頭・ニホンキジ2頭・レインボーボア3頭・タイワンスジウ3頭・アオダイショウ3頭・ふ卵器

【ノボシビルスク市→札幌市】

・ベルシャヒョウ2頭・カワウソ2頭

1988年(昭和63年)

5月 ▶板垣札幌市長の招待によりチキニョフ・ノボシビルスク市長一行来札。市議会本会議場でチキニョフ市長演説。

- 7月 ▶札幌市職員1名がノボシビルスク市役所で10日間研修。
- 9月 ▶札幌日ソ親善協会代表団(団長:竹田現照理事長)がノボシビルスク市を親善訪問。
- 10月 ▶ノボシビルスク国立大学の学生1名が札幌大学金子助教授宅で2カ月間ホームステイ。以後、両大学間で短期ホームステイによる学生相互交流を行うことで合意。
- 11月 ▶ノボシビルスク・オペラ・バレエ劇場バレエ団が来札し、小沢輝佐子舞踊団と合同公演開催。
▶両市で写真交換実施(札幌市から約40点、ノボシビルスク市から約60点)。
- 12月 ▶澄川中学校の中川速男教諭が、札幌市民として初めてノボシビルスク市で1カ月間ホームステイ。

1989年(平成元年)

- 1月 ▶札幌国際交流プラザでノボシビルスク市写真展開催。
- 2月 ▶さっぽろ・ノボシビルスク友好協会設立(代表:富田新一札幌市議会議員)。
- 5月 ▶第1回臨時市議会で「札幌市とノボシビルスク市との友好促進に関する決議」を全会一致で採択。
- 6月 ▶札幌市・札幌市議会代表団(桂札幌市助役、吉野札幌市議会議長ほか)が、インディノク・ノボシビルスク市長の招待によりノボシビルスク市を訪問。ノボシビルスク市長に「友好促進決議」を手交。
- 8月 ▶日ソ協会札幌支部の代表団3名が、ソ日協会ノボシビルスク支部の招待によりノボシビルスク市を訪問。
▶さっぽろ・ノボシビルスク友好協会の招待により、ノボシビルスク市から青年文化交流団一行13名が来札し、2週間から50日間のホームステイ。
▶「第1回札幌カップ国際スケート大会」に参加するため、ノボシビルスク市から少年アイスホッケーチームと女子フィギュアスケート選手来札。
- 10月 ▶小沢輝佐子舞踊団とノボシビルスク・オペラ・バレエ劇場バレエ団がノボシビルスク、モス

クワ、東京の3会場で合同公演開催。

- ▶札幌市の招待により、「第14回札幌国際マラソン大会」に参加するため、ノボシビルスク市から役員1名、選手3名来札。
- ▶「第4回極東会議」(札幌開催)に参加するため、ノボシビルスク州代表団(団長:カサウーロフ州副知事ほか15名)が来札。

1990年(平成2年)

- 3月 ▶ノボシビルスク・札幌友好協会設立(会長:フロロワ・ノボシビルスク国立大学言語学部助教授)。
▶第1回定例市議会で「札幌市とノボシビルスク市との姉妹都市提携に関する決議」を全会一致で採択。
- 4月 ▶ノボシビルスク市議会で、両市の姉妹都市提携を全会一致で承認。
▶札幌国際交流プラザで「ノボシビルスクを知るセミナー」を4回シリーズで開催。

～提携後～

6月 ○姉妹都市提携調印

ノボシビルスク市提携調印代表団(インディノク市長ほか6名)を迎え、札幌グランドホテルで調印式及び記念祝賀会を開催。

また、北海道教育大学札幌分校とノボシビルスク国立教育大学の間で交流協定調印。(13日)



提携調印式で握手を交わす両市長

- 7月 ▶北海道大学経済学部とソ連科学アカデミー・シベリア支部「経済・工業生産組織研究所」が研究交流協定調印。

- 7～8月 ▶ソ連科学アカデミー・シベリア支部「経済・工業生産組織研究所」副所長兼経済誌「EKO」編集長ワレリー・クリシヨフ氏を札幌市が招待。経済分野における相互理解を目的として、天神山国際ハウス、札幌国際交流プラザ、北海道大学の3カ所で経済セミナー開催。
- ▶ノボシビルスク音楽協会の音楽家2名(男性ピアニスト、女性声楽家)が来札。道庁赤レンガ音楽祭、札幌国際交流プラザなど、市内で演奏会を開催。
- ▶さっぽろ・ノボシビルスク友好協会会員及び札幌の大学生30名がノボシビルスク市を親善訪問し、約1カ月間のホームステイなど市民同士の交流を深める。
- 8月 ▶瀋陽市で開催された「姉妹都市国際親善ジュニアスポーツ交流」(種目:男子柔道)にノボシビルスク市が初参加。
- ▶日ソ協会札幌支部代表団3名(団長:竹田正直支部長)が、日ソ協会ノボシビルスク支部の招待でノボシビルスク市を親善訪問。
- 姉妹都市提携記念事業 [札幌市→ノボシビルスク市]
- 板垣札幌市長を団長とする姉妹提携記念友好訪問団22名(市長団3名、市議会代表団8名、経済代表団11名)がノボシビルスク市を訪問。提携記念式典において「姉妹都市間友好と協力の発展に関する声明書」に調印。
- 9月 ▶「札幌国際親善の集い」主催文化交流団(団長:谷口良一会長)25名がノボシビルスク市を親善訪問。日本舞踊、生花、茶道など、日本の伝統芸能をノボシビルスク市民に紹介。
- ▶日ソ協会ノボシビルスク支部代表2名(フルストフ部長、パブロワ書記)が、日ソ協会札幌支部の招待で来札。札幌国際交流プラザで「ノボシビルスク市紹介セミナー」等を開催。
- ▶北海道放送(株)とノボシビルスク・テレビラジオ委員会が業務交流協定調印。富原社長ほか3名がノボシビルスク市を訪問。
- 10月 ▶札幌天神山国際ハウスで「ノボシビルスク市展」開催。ノボシビルスク市の写真パネル、民芸品等を展示。
- ▶札幌日ソ親善協会主催札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念公演「ロシア・クラシ

ックバレエの星」を札幌市民会館にて開催。

- ▶第1回札幌国際交流プラザ文化・経済使節団(団長:秋山孝二(株)秋山愛生館専務)12名がノボシビルスク100年基金財団との提携プログラムとしてノボシビルスク市訪問。ビジネス、医療、教育、音楽、演劇、図書等の分野で交流を深める。
- ▶札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「シベリア展」開催(主催:北海道日ソ友好文化会館・札幌市、協賛:ソ連科学アカデミー・シベリア支部)。期間中、科学アカデミー・シベリア支部代表団6名を迎え、天神山国際ハウスで講演会開催。

- 11月 ▶ノボシビルスク市経済関係者7名(団長:ノボシビルスク航空機企業公団総裁)が商談のため来札。

▶ノボシビルスク100年基金財団理事長シャモフ氏と同財団書記ネブモベンコ氏の2名が、札幌国際交流プラザとの交流打合せのため来札。関係各所との懇談及びプラザサロンディスカッションに出席。

▶ソ連科学アカデミー・シベリア支部「歴史・言語・哲学研究所」所長デレビヤンコ氏が、札幌大学考古学研究室との共同研究のため来札。

- 11～12月 ▶ノボシビルスク・札幌友好協会副会長クロボチキン氏が市民交流推進のため、さっぽろ・ノボシビルスク友好協会の招待により来札。

- 12月 ▶ソ連科学アカデミー・シベリア支部「歴史・言語・哲学研究所」研究員2名が、遺跡調査における写真測量技術研修のため来札。

▶札幌姉妹都市協会と札幌国際交流プラザが窓口となり、ノボシビルスク市民に医薬品を贈るための募金活動開始。(募金期間:1991年2月15日まで、募金総額:約550万円)

1991年(平成3年)

- 1月 ▶ノボシビルスク国立グリニカ音楽院グレンコ学長、同学院アントン・バラホフスキー氏(バイオリニスト)ほか1名が、北海道国際音楽交流協会(ハイメス)の招待により来札。「第3回ハイメス・チャリティー・コンサート」で札幌交響楽団と共演したほか、札幌国際交流プラザ・ノボシビルスク100年基金財

- 団主催「バラホフスキー新春バイオリンリサイタル」を開催。
- 2月** ▶ノボシビルスク観光経済訪問団一行23名が、「札幌国際親善の集い」（会長：谷口良一氏）の招待により来札。企業訪問、観光セミナー等を行う。滞在中、「眼科マイクロサージェリー」ノボシビルスク支部長が札幌医科大学で講演。来札中の同訪問団に、ノボシビルスク市民への第1次支援医薬品目録を贈呈。
- ▶「第18回国際雪像コンクール」にノボシビルスクチーム4名が初参加。
- 3月** ▶ノボシビルスク市経済代表団7名（団長：ゴロデツキー・ノボシビルスク市副市長）が札幌市の招待により来札。札幌商工会議所をはじめ、市内関係企業を訪問。来札中のノボシビルスク市経済代表団にノボシビルスク市民への第2次（最終）支援医薬品目録を贈呈。
- 4月** ▶ノボシビルスク国立交響楽団首席指揮者アーノルド・カッツ氏が、国際ソロプチミスト札幌の招待により来札。国際ソロプチミスト札幌認証20周年年記念「札幌の夕べ」において、ピアニスト中村紘子氏を迎え札幌交響楽団を指揮。
- 5月** ▶シベリア新聞編集長ユケチョフ氏ほか2名が、北海道新聞社との協力協定に基づく記者交換の一環として来札。
- ▶さっぽろ東急デパートのカメラ祭期間中、ノボシビルスク市の写真クラブ「ムードリェッツ」から提供された芸術写真48点を展示。
- 6月** ▶シベリア・極東地方との新たな地域間交流を図るため、札幌青年会議所がノボシビルスク市ほか2都市（ウラン・ウデ、ウラジオストク）に訪問団を派遣。
- 7月** ▶ノボシビルスク100年基金財団在モスクワスタッフのドミートリー・コーベッツ氏を札幌国際交流プラザの研修スタッフとして1カ月間受入れ。
- ▶北海道新聞社の招待により、ノボシビルスク・ファッションハウスの一行15名が来札。京王プラザホテルにて、「シベリア・ファッションショー」を開催。（20日）
- 7～8月** ▶第1回ノボシビルスク少年交流派遣団（団長：稲童丸札幌市白石区長）がノボシビルスク市訪問。ノボシビルスク市の少年たちと交流を深める。
- 8月** ▶HBCジュニアオーケストラ一行79名（団長：松尾HBC事業局長）が、親善公演のためノボシビルスク市を訪問。グリーンカ音楽院、アカデムゴロドク学会館ホールにてコンサート開催（3,4日）。また、これに合わせ、日ソ協会札幌支部友好訪問団28名（団長：菊田札幌市議会議員）がノボシビルスク市訪問。
- 9月** ▶札幌演劇鑑賞協会との「相互招待に関する覚書」（1991.6.9締結）に基づく交流のため、ノボシビルスク国立劇場「クラスヌイ・ファケル」代表団が来札。
- 10月** ▶日ソ協会札幌支部との交流のため、ソ日協会ノボシビルスク支部事務局長及び対文連ノボシビルスク支部事務局長の2名が来札。札幌市婦人文化センターで行われた札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「ロシア語詩のつどい」（主催：日ソ協会札幌支部・札幌姉妹都市協会、参加総数80名）に特別ゲスト出演。（8日）
- ▶グリーンカ音楽院の招待により、札幌大谷短期大学藤田道子教授がノボシビルスク市を訪問し声楽指導。
- ▶「第2回札幌カップ国際スケート大会」参加のため、ノボシビルスク市からアイスホッケーチームが来札。
- ▶ノボシビルスク国立大学研究交流団が北海道大学理学部との地質研究のため来札。
- 11月** ▶ノボシビルスク市役所一行（国際部長、商工部長、建築・建設局次長）が、ノボシビルスク市商品常設展示場開設の協議のため来札。また、札幌国際プラザにおいて「最近のノボシビルスク市民の生活について」をテーマに講演を実施。
- 11～12月** ▶ノボシビルスク市で開催された「第5回シベリア見本市」（12月4～8日）への出展及び札幌市商品常設展示コーナー開設のため、札幌市から古田経済企画課長ほか3名、対ソ貿易会社等から6名がノボシビルスク市訪問。札幌市常設展示コーナーはノボシビルスク市郷土博物館2階（50㎡）に設置され、オープン記念式典では、インディノク市長と古田課長がテープカットを行った。（9日）

1992年(平成4年)

- 1～2月 ▶ノボシビルスク・札幌友好協会の会員であるノボシビルスク国立大学日本語学科の学生一行11名がさっぽろ・ノボシビルスク友好協会(会長:富田新一氏)の招待により来札。
- ▶「第19回国際雪像コンクール」にノボシビルスク市チーム4名が参加。Bグループ優勝を飾る。
- 2月 ▶日本文化を通じて北海道とロシアの交流を図ることを目的として、北海道・ロシア囲碁協会(会長:根本清一氏)が札幌に設立。
- 3月 ▶ロシア科学アカデミー・シベリア支部ドブレツォフ第一副総裁が北海道大学理学部の招待により来札。北海道大学理学部と科学アカデミー・シベリア支部「地質学・地球物理学・鉱物学連合研究所」との学術交流協定に調印。
- ▶アイセック(国際経済商学学生協会)北海道大学委員会代表5名が、アイセック・ノボシビルスク委員会と姉妹団体提携を行うためノボシビルスク市を訪問。
- 3～4月 ▶北海道・ロシア囲碁協会のメンバー8名が、「北海道・ロシア文化センター」建設について協議するため、ノボシビルスク市訪問。
- 5月 ▶日ソ協会札幌支部の招待により、ノボシビルスク市のアンサンブル「ミール」が来札。札幌第2ワシントンホテルで行われた「ロシア料理と民謡の夕べ」へ出演したほか、ザルuterホテルでコンサートを開催。
- ▶札幌演劇鑑賞協会のメンバー5名が、ノボシビルスク国立劇場「クラスヌイ・ファケル」との相互交流の一環として、ノボシビルスク市を訪問。
- ▶札幌青年会議所のメンバー25名が、ノボシビルスク100年基金財団との交流のため、ノボシビルスク市を訪問。
- ▶日ソ協会札幌支部と札幌姉妹都市協会との共催により、札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「ロシア語詩のつどい」開催。来札中のノボシビルスク市のアンサンブル「ミール」が特別出演。(参加者総数117名)
- ▶ノボシビルスク製品常設展示コーナー開場式出席のため、タラコンスキー・ノボシビルスク市第一副市長を団長とする代表团4名が来札。アクセスサッポロでの開場式(22日)のほか、札幌国際プラザで開催された経済セミナーで講演(テーマ:ノボシビルスク市の社会経済の現状と今後の展開について)。また、ロシア文学図書375点と児童絵画46点が札幌市に寄贈される。
- 6月 ▶ノボシビルスク100年基金財団との音楽・文学交流のため、北海道国際音楽交流協会(ハイメス)の代表团3名がノボシビルスク市を訪問。
- 6～7月 ▶札幌天神山国際ハウスで「ノボシビルスク市児童絵画展」を開催。
- 6～8月 ▶科学アカデミー・シベリア支部の協力により、月寒グリーンドームで開催された「コミュニケーションワールド'92(コム博)」の国際交流館に、ロシア・マンモスの祖先トロゴンテリー象の全身骨格を展示。
- 7月 ▶札幌国際プラザ主催「第1回日米露学生集中講座」に参加するため、ノボシビルスク市の大学生6名が来札。
- ▶北海道大学理学部地質学鉱物学教室の渡辺助教授ほか8名が、科学アカデミー・シベリア支部訪問。
- 7～8月 ▶久富淑子バレエ研究所の招待により、ノボシビルスク舞踊学校教授及びバレエダンサーが来札。教育文化会館にて同舞踊学校留学生帰国報告バレエ公演を開催。(7月30日)
- ▶札幌市のロシア語研修生1名が、ノボシビルスク市役所で1カ月間行政研修。
- 8月 ▶ドイツ・ミュンヘン市で開催された「姉妹都市国際親善ジュニアスポーツ交流」(種目:男子バレーボール)にノボシビルスク市が参加。
- ▶日ソ協会札幌支部代表3名と合気道「合気会北海道支部」代表5名がノボシビルスク市を親善訪問。
- ▶魚住札幌市助役が、イルクーツクで開催された「第5回日ロ極東シベリア・北海道各界代表者会議」に出席の折、ノボシビルスク市を訪問。
- ▶北海道大学経済学部との研究交流のため、ロシア科学アカデミー「経済・工業生産組織研究所」所長のワレリー・クリショフ氏が来札。
- 9～10月 ▶日ソ協会札幌支部が、札幌国際プラザ「プ

ラザリ]でノボシビルスク市児童絵画展開催。

▶「第17回札幌マラソン」の招待選手として、ノボシビルスク市からニハロシコフ団長ほか選手3名が来札。

▶グリーンカ音楽院グレンコ学長を団長とする同音楽院代表団4名が、北海道国際音楽交流協会(ハイメス)の招待により来札。札幌をはじめ道内6都市でオペラコンサートを開催。

10月 ▶ノボシビルスク市と北海道・ロシア文化協会(会長:根本清一氏)が計画を進めている北海道・ロシア文化センター(現シベリア・北海道文化センター)の建設問題について協議するため、ノボシビルスク市プガチョフ副市長(建設担当)とサンダコフ国際部長が来札。

10~11月 ▶北海道国際ナショナルダンスシアター小沢輝佐子舞踊団が主催する「1992年国際交流提携北方圏舞踊集団創立記念合同公演」に参加するため、ノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場バレエ団9名(団長:プロツキー支配人)が来札。11月1日、北海道厚生年金会館にて、ロシア、中国、カナダ、日本の4カ国により「さまざまな雲」を公演。
▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」の一環として、第1回ノボシビルスク少年団12名が来札。桑園小学校や東陵高校などの学校訪問やホームステイなどにより、札幌の子供たちと交流を深める。

12月 ▶北海道国際音楽交流協会(ハイメス)の交流団が、グリーンカ音楽院を訪問。邦楽の授業、コンサート等を行ったほか、琴や楽譜を寄贈。また、同音楽院附属日本音楽文化センターが設立される。

▶企業視察や学生同士の意見交換を行うため、アイセック・北海道大学委員会の招待により、アイセック・ノボシビルスク国民経済大学委員会代表5名が来札。

1993年(平成5年)

1月 ▶ノボシビルスク市100年基金財団シャーモフ理事長とグリーンカ音楽院学生エテリ・グワザワ氏(ソプラノ)が北海道国際音楽交流協会(ハイメス)の招待により来札。ハイメス主催チャリティー・ニューイヤー・コンサートに出演。

2月 ▶「第20回国際雪像コンクール」に参加するため、ノボシビルスク市チーム4名が来札。

▶ノボシビルスク市建設公社支配人ほか1名が、北海道・ロシア文化センター(現シベリア・北海道文化センター)の建設について技術的な打合せを行うため来札。

4月 ▶北海道・ロシア文化センター(現シベリア・北海道文化センター)建設の打合せのため、北海道・ロシア文化協会代表5名がノボシビルスク市を訪問。

5月 ▶グリーンカ音楽院でパシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)参加オーディション開催。オーディション立会いのため、PMF組織委員会の田口氏がノボシビルスク市を訪問。

6月 ▶ノボシビルスク市開基100年記念「国際ナショナル・ジャズ・ウィーク」に、札幌のピアニスト宝示戸亮二氏が招待参加。

▶ノボシビルスク市の「シベリア見本市」が取りまとめたシベリアの16企業58名が、「93札幌国際見本市」に出展のため来札。

▶ノボシビルスク市において、北海道大学理学部とノボシビルスク国立大学が教員交流や資料交換を目的とした協定を締結。

6月~7月 ▶ノボシビルスク市開基100年祭に参加するため、桂札幌市長を団長とする親善訪問団35名(市長団3名、札幌国際プラザ訪問団28名、北海道・ロシア文化協会訪問団4名)が、ノボシビルスク市を訪問。ノボシビルスク市中心部に位置するレーニン広場で100年記念祭開会式が行われ、ルツコイ・ロシア連邦副大統領、ムーハ・ノボシビルスク州知事とともに桂市長が祝辞を述べた。(7月3日)



ノボシビルスク開基100年記念祭開会式

- 7月 ▶ノボシビルスク市の少年野球チーム「サバリ
ヨーク(クロテン)」が来札。西岡小学校ほ
か、小樽、静内等で交歓試合を開催。
- 7～8月 ▶パシフィック・ミュージック・フェスティバル
(PMF) にノボシビルスク市の若手音楽家
2名が参加。
- ▶日口合同アンサンブル「ゼムリキー(同郷名)」
のソプラノ歌手ガリーナ・ザイツェワ氏とバヤン
奏者アナトーリー・ルーチン氏が来札。バルト
ンの中川速男氏と道内13ヵ所で公演を行う。
- 8月 ▶ロ日協会ノボシビルスク支部代表団(团长:タ
チアナ・パブロワ支部長)が、日本ユーラシ
ア協会札幌支部の招待により来札。うち4名
は、合気会北海道支部と合気道の親善交流
を実施。
- ▶札幌国際プラザにて、日本ユーラシア協会
札幌支部と札幌姉妹都市協会の共催により
「第3回ロシア語詩のつどい」開催。来札
中のロ日協会ノボシビルスク支部代表団が
特別参加。(参加者60名)
- ▶札幌国際プラザ主催「第2回日米露学生集
中講座」にノボシビルスク市の大学生3名が参加。
- 10月 ▶エリツィン・ロシア連邦大統領が、ムーハ・
ノボシビルスク州知事を解任し、インディノ
ク・ノボシビルスク市長を新知事に任命。
- ▶インディノク・ノボシビルスク州知事がタラ
コンスキー・ノボシビルスク市第一副市長を
新市長に任命。
- 11月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」のため、
ノボシビルスク少年交流団12名が来札。
- 12月 ▶サンダコフ・ノボシビルスク市国際部長夫妻
が、北海道・ロシア文化協会との会館運営
協議のため、同協会の招待により来札。

1994年(平成6年)

- 1月 ▶北海道新聞社との記者交換でシベリア新聞
ユケチョフ編集長が来札。札幌市長表敬訪
問や企業視察等を実施。
- 3月 ▶グリーンカ音楽院で開催されるパシフィック・
ミュージック・フェスティバル(PMF) ロシ
ア国内オーディション立会いのため、PMF
の職員2名がノボシビルスク市訪問。
- ▶札幌交響楽団が、ノボシビルスク交響楽団

- 首席指揮者アーノルド・カツツ氏を招聘し、
札幌、東京、大阪でコンサートを開催。
- 5月 ▶株式会社LINKSが商談のため、ノボシビ
ルスク市を訪問。
- 7月 ▶札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第4回
ロシア語詩のつどい」開催。(参加者120名)
- ▶株式会社LINKSが商談のため、ノボシビ
ルスク市を再訪。タラコンスキー・ノボシビ
ルスク市長と会談し、市の協力を確認する。
- 7～8月 ▶ノボシビルスク市の若手音楽家5名が、パ
シフィック・ミュージック・フェスティバル
(PMF) 参加のため来札。
- ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で、
札幌少年交流団12名が、イルクーツク、シ
ベリア鉄道経由でノボシビルスク市を訪問。
- ▶札幌国際プラザ主催「第3回日米露学生集
中講座」にノボシビルスク市シベリア独立
大学の学生3名が参加。
- 8月 ▶日本ユーラシア協会札幌支部代表団3名
が、ノボシビルスク・ロ日協会との交流のた
め、ノボシビルスク市を親善訪問。
- 8～9月 ▶ノボシビルスクロ日協会パブロワ会長が、
日本ユーラシア協会の招待により来札。道
内各支部を訪問したほか、澄川中学校の英
語授業を見学。
- 9月 ▶株式会社LINKSが東急インロビーにロシ
アから輸入した民芸品の店「ラフカ」を開店。
- ▶株式会社LINKSがノボシビルスク市を訪問
し、「シベリア見本市」への出展参加を決定。
- ▶「第6回極東会議」参加のため、ノボシビ
ルスク代表団(团长:ヴォロノフ副市長)6
名が来札。滞在中、レーピン・ノボシビル
スク国立教育大学学長が、北海道教育大
学、北海道大学教育学部と交流したほか、
ノボシビルスク・モスビジネスバンク所長が
北海道拓殖銀行国際部を訪問。
- 10月 ▶日本ユーラシア協会札幌支部と札幌市の共
催により市役所ロビーで「ユーラシア児童画
展」を開催。ノボシビルスク市の児童画10
点を含む40点の絵を展示。
- 11月 ▶北海道国際音楽交流協会(ハイメス)の藤
田道子、高垣幸子両氏が、グリーンカ音楽院
を訪問。日本音楽講座で指導を行う。

- 12月 ▶北海道・ロシア文化協会の根本会長一行が、北海道・ロシア文化センター（現シベリア・北海道文化センター）建設問題について話し合うため、ノボシビルスク市を訪問。
- ▶株式会社 LINKS が12月6日から9日まで「シベリア見本市」のジャパン・フェアを主催し、日本の商品を出展。
- ▶ノボシビルスク国立演劇場「クラスヌイ・ファケル」の支配人及びプロデューサーが、札幌演劇鑑賞協会との交流の一環として来札。

1995年（平成7年） 姉妹都市提携5周年

- 3～4月 ▶ノボシビルスク音楽協会所属の古典音楽アンサンブル「インストラ・マジカ」と「シャローモフ・ボーカル・アンサンブル」一行が、ピンネシリ・プロジェクトの招聘により来札し、札幌市と苫小牧市で公演。
- 5月 ▶ノボシビルスク音楽協会との文化交流の一環として、詩劇「ピンネシリ」ロシア公演のため、原子修芸術監督ほか13名がノボシビルスク市訪問。音楽コメディ劇場ほか2カ所で公演。

6月 ○姉妹都市提携5周年記念事業 [ノボシビルスク市→札幌市]

札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携5周年記念事業参加のため、タラコンスキー・ノボシビルスク市長ほか3名がノボシビルスク市代表団として来札。

16日（金）、ホテルロイトン札幌で記念式典・祝賀会が行われ、両市民合わせて約500名が参加。また、両市長立会いのもと、北海道国際音楽交流協会（ハイメス）とグリーンカ音楽院附属日本音楽文化センターとの間で、友好団体の提携調印。



5周年記念事業で日本文化体験

- ▶ノボシビルスク市長団の来札に合わせ、バレエファンタジアとノボシビルスク・ロ日協会代表一行が「バレエファンタジア実行委員会」の招待により来札。17日に山鼻中学校にて親善公演、19日に共済ホールにて5周年記念公演を開催。
- ▶姉妹都市提携5周年記念文化交流団として、グリーンカ音楽院附属日本音楽文化センターのドゥブロフスカヤ・センター長を団長とする音楽家一行が来札。16日に市民ロビーコンサート、17日に札幌国際プラザにて講演会「私と日本伝統文化」、20日には札幌サンプラザホールにてジョイントコンサートを開催。
- ▶姉妹都市提携5周年記念「第5回ロシア語詩のつどい」開催。来札中のノボシビルスク・ロ日協会代表団、「バレエファンタジア実行委員会」も参加。
- 7月 ▶ノボシビルスク州立人形劇団（団長：ピリユーリヤ支配人）一行6名が、姉妹都市提携5周年を記念して来札。『こぐま座』の夏休み特別公演で5回公演。
- 7～8月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」でノボシビルスク少年交流団12名が来札。
- ▶札幌大学外国語学部の招聘により、ノボシビルスク市の大学生2名が来札。「ロシア語短期合宿夏期集中講座」で、アシスタント講師を務める。
- ▶パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）にノボシビルスク市の若手音楽家4名が参加。
- 8～9月 ▶札幌姉妹都市協会主催「市民海外姉妹都市派遣事業」派遣決定者の近藤文子さんが、研修先のノボシビルスク市訪問。（研修テーマ「ロシアのダーチャを訪ねて」）
- 9月 ▶札幌市初のロシア人国際交流員として、姉妹都市ノボシビルスク市からマリーナ・カリュジノワさんが来札。
- 姉妹都市提携5周年記念事業 [札幌市→ノボシビルスク市]
- 姉妹都市提携5周年記念札幌市訪問団（市長団4名、市議会代表団11名、文化交流団4名）がノボシビルスク市訪問。そのほか、ノボシビルスク・ロ日協会の招待

により日本ユーラシア協会代表団6名が、グリーンカ音楽院の招待により藤田道子、高垣幸子両氏が訪問。

6日、「シベリア・北海道文化センター」竣工式。

7日、ホテルシベリアにて5周年記念式典・祝賀会開催。式典では「西暦2000年までの札幌市とノボシビルスク市の姉妹関係促進に関する宣言」に両市長が署名。

同日、グリーンカ音楽院コンサートホールにて、日ロジョイントコンサート開催。



シベリア・北海道文化センター竣工式

10月 ▶札幌教育文化会館で、詩劇「ピンネシリ」の姉妹都市提携5周年記念公演（ロシアからの帰国公演）開催。

▶北海道インターナショナルダンスシアター小沢輝佐子舞踊団主催「1995国際交流提携3カ国合同公演」参加のため、プロツキ・ノボシビルスク市副市長を団長とするノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場バレエ団が来札。北海道厚生年金会館で公演。

10～11月 ▶地下鉄ふれあい広場展示コーナーで日本ユーラシア協会札幌支部主催「ノボシビルスク児童絵画展」開催。約50点の作品を展示。

1996年（平成8年）

1～2月 ▶「第23回雪像コンクール」に出場するノボシビルスク市チーム4名と親善訪問団4名が来札。ホームステイやさっぽろ・ノボシビルスク友好協会との交流を通じて市民との友好を深める。

2月 ▶北海道・ロシア文化協会一行4名が、シベリア・北海道文化センターのオープン祝賀行事打合せのため、ノボシビルスク市を訪問。

3月 ▶ノボシビルスク市長選挙で、現職のタラコンスキー・ノボシビルスク市長が当選。

6月 ▶札幌姉妹都市協会と日本ユーラシア協会札幌支部の共催により、札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第6回ロシア語詩のつどい」開催。

7～8月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で札幌市少年交流団12名がノボシビルスク市訪問。

▶パシフィック・ミュージック・フェスティバル（PMF）にノボシビルスク市の若手音楽家1名が参加。

▶札幌大学外国語学部の招聘により、ノボシビルスク市の大学生1名が来札。「ロシア語短期合宿夏期集中講座」でアシスタントを務める。

▶シベリア・北海道文化センターがオープン。完成を記念して、北海道・ロシア文化協会一行と札幌市から田中交流課長がノボシビルスクを訪問。

8月 ▶「姉妹都市国際親善ジュニアスポーツ交流事業」（種目：女子バレーボール）に、ノボシビルスク市チーム16名が参加。

11月 ▶北海道国際音楽交流協会（ハイメス）高垣幸子氏がグリーンカ音楽院を訪問。音楽院40周年記念演奏会に出演、マスタークラスを指導。

1997年（平成9年）

2月 ▶「第24回国際雪像コンクール」にノボシビルスク市チーム4名が参加。

5月 ▶日本ユーラシア協会、ノボシビルスク・ロ日協会共催「'97日ユ友好北海道フォーラム」出席のため、ノボシビルスク・ロ日協会タチアナ・パブロワ会長が来札、桂市長を表敬訪問。

7月 ▶札幌姉妹都市協会と日本ユーラシア協会札幌支部の共催により、札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第7回ロシア語詩のつどい」開催。

7～8月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で、ノボシビルスク少年交流団11名が来札。

▶札幌大学外国語学部の招聘により、ノボシビルスク市の大学生2名が来札。「ロシア語短期合宿夏期集中講座」でアシスタントを務める。

10月 ▶日本ユーラシア協会の招聘により元グリーンカ音楽院教授でバイオリニストのザハール・

ブロン氏が来札。札幌コンサートホール Kitara でコンサート開催。

11月 ▶北海道国際音楽交流協会（ハイメス）の藤田道子、高垣幸子両氏がグリニカ音楽院附属日本音楽文化センターを訪問。

12月 ▶ノボシビルスク交響楽団が公演のために来札。指揮者アーノルド・カツツ氏ほか2名が桂市長を表敬訪問。

1998年(平成10年)

2月 ▶「第25回国際雪像コンクール」にノボシビルスク市チーム4名が参加。

3月 ▶札幌駅北口連絡通路に姉妹都市コーナーがオープン。

7月 ▶北海道国際音楽交流協会（ハイメス）の受入事業として、グリニカ音楽院助教授補（日本音楽文化センター副センター長）ミハイル・ボグダーノフ氏が来札。1年間等の指導を受ける。
▶札幌市国際交流員として、ノボシビルスク出身のタイシヤ・チーナさんが来札。

7～8月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で札幌市少年交流団12名がノボシビルスク市訪問。
▶日本ユーラシア協会北海道連合会の招待により、音楽レッスンとコンサートのため、グリニカ音楽院教授2名（ピアノ、バイオリン）が来札。

8月 ▶「姉妹都市国際親善ジュニアスポーツ交流事業」で札幌から女子バスケットボールチーム16名がノボシビルスク市を訪問。

9月 ▶札幌姉妹都市協会と日本ユーラシア協会札幌支部の共催により、札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第8回ロシア語詩のつどい」開催。

10月 ▶北海道国際音楽交流協会（ハイメス）の招聘により、グリニカ音楽院附属日本音楽文化センター長マリーナ・ドゥブロフスカヤ氏が来札。講演会やコンサート等に出演。

1999年(平成11年)

2月 ▶「第1回姉妹都市フェスティバル」開催。

2～3月 ▶札幌市長長期海外研修生1名がノボシビルスク市役所で1カ月半行政研修。

6月 ▶北海道国際音楽交流協会（ハイメス）の招

聘によりグリニカ音楽院附属日本音楽文化センター副センター長アンドレイ・クガエフスキー氏が来札。

7月 ▶日本ユーラシア協会、ロ日協会共催「第5回日ロフォーラム・日本文化週間」がノボシビルスク市にて開催。同イベント出席のため、日本ユーラシア協会一行7名が同市を訪問。

▶札幌市国際交流員として、ノボシビルスク出身のイリーナ・プーリクさんが来札。

7～8月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」でノボシビルスク市少年交流団13名が来札。

8月 ▶「第6回札幌カップ国際アイスホッケー競技大会」に参加するため、ノボシビルスク市少年チーム一行22名が来札。

▶シベリア・北海道文化センター館長アレクサンドル・スピリドノフ氏が来札。桂市長等を表敬訪問。

9月 ▶北海道国際音楽交流協会（ハイメス）に所属する13名の音楽家を含む一行17名が、ノボシビルスク及びモスクワにてコンサートを開催するためロシア訪問。

▶札幌姉妹都市協会と日本ユーラシア協会札幌支部の共催により、札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第9回ロシア語詩のつどい」開催。

11月 ▶札幌姉妹都市協会主催「海外姉妹都市派遣事業」により神原真純さんがノボシビルスク市を訪問。（研修テーマ「ロシアの現代美術を探る」）

12月 ▶北海道・ロシア文化協会の招待により、チュエルボフ・ノボシビルスク州議会議員及び建設会社「シベリア」社長が来札。建築技術、都市計画についての視察を行う。

2000年(平成12年) 姉妹都市提携10周年

1月 ▶ノボシビルスク州知事選挙において、タラコンスキー・ノボシビルスク市長が当選。

2月 ▶「第27回国際雪像コンクール」にノボシビルスク市チーム4名が参加。

▶「第2回姉妹都市フェスティバル」開催。

3月 ▶ノボシビルスク市長選挙において、ゴロデツキー・ノボシビルスク市第一副市長が当選。

6月 ○姉妹都市提携10周年記念事業 [札幌市

→ノボシビルスク市]

札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携10周年記念札幌市訪問団34名(市長団4名、市議会代表団11名、国際プラザ訪問団11名、日本ユーラシア協会訪問団5名、その他3名)がノボシビルスク市訪問。

29日にノボシビルスク市役所にて10周年記念式典開催。「札幌市とノボシビルスク市の姉妹関係促進に関する宣言」に両市長が署名。

併せて、札幌国際プラザとノボシビルスク市立シベリア・北海道文化センター、北海学園大学とノボシビルスク国立大学との間で姉妹団体の提携調印が、日本ユーラシア協会札幌支部とロ日協会との間で協定書の調印が行われた。同日、シベリア・北海道文化センターにて両市の音楽家の合同演奏会、記念植樹が行われた。



10周年記念式典で調印を交わす両市長

7月 ▶大杉洋子バレエアカデミー、日本ユーラシア協会北海道連合会の招待でバレエダンサー3名(サンクトペテルブルク・マリインスキー劇場ソリスト・ユリア・マハリナさん他ノボシビルスク市出身男性ダンサー2名)、国立ノボシビルスクバレエ学校教師1名、学生5名が来札。札幌市民会館にて日ロ合同で創作バレエ「夕づる」公演(19日)。

7~8月 ▶パシフィック・ミュージック・フェスティバル(PMF)にノボシビルスクの若手音楽家1名が参加。

▶姉妹都市提携10周年を記念し、北海道・ロシア文化協会代表団一行6名がノボシビルスク市を訪問。

8月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で、

札幌市少年交流団13名がノボシビルスク市訪問。

▶札幌・ノボシビルスク姉妹提携10周年記念ロシア国立劇場札幌公演実行委員会の招待により、ロシア国立ドラマ劇場「スターレイドム」一行17名が来札、3日から5日に札幌市教育文化会館にて「牡丹燈籠」を公演。

8月 ▶札幌国際プラザ主催「北東アジア・米国学生集中講座」にノボシビルスク市の大学生2名が参加。

○姉妹都市提携10周年記念事業[ノボシビルスク市→札幌市]

姉妹都市提携10周年記念行事参加のため、ゴロデツキー・ノボシビルスク市長ほか5名がノボシビルスク市代表団として、また、日本ユーラシア協会札幌支部の招待により、ロ日協会ノボシビルスク支部代表団4名が来札。

9日、ホテルロイトン札幌にて記念式典、大通8丁目ピアガーデンにて記念祝賀会が行われ、両市民合わせて約250名が参加。10日には、モエレ沼公園にて記念植樹が行われた。



モエレ沼公園に10周年記念植樹

9月 ▶札幌姉妹都市協会と日本ユーラシア協会札幌支部の共催により、札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第10回ロシア語詩のつどい」開催。

9~10月 ▶札幌姉妹都市協会主催「海外姉妹都市派遣事業」により高橋昭夫さんがノボシビルスク市を訪問。(研修テーマ「平均的な人々の生活状態、生活観念の観察」)

11月 ▶北海道国際音楽交流協会(ハイメス)の招待によりグリムカ音楽院附属日本音楽文化センター長マリーナ・ドゥブロフスカヤ氏が

来札。コンサートに出演。

2001年(平成13年)

- 1月 ▶元札幌市国際交流員マリーナ・カリュジノワさんが北海道教育大学札幌校に留学。
- 2月 ▶「第28回国際雪像コンクール」にノボシビルスク市チーム3名が参加。
▶「第3回姉妹都市フェスティバル」開催。
- 6月 ▶北海道・ロシア文化協会設立10周年記念式典・祝賀会に参加するため、プロツキー・ノボシビルスク市副市長、スピリドノフ・シベリア・北海道文化センター館長が来札。
- 7月 ▶ノボシビルスク・フィルハーモニー管弦楽団が公演のため来札(4～5日にKitaraで公演)。指揮者アーノルド・カツ氏ほか4名が桂市長を表敬訪問。



ノボシビルスク・フィルハーモニー管弦楽団演奏会

- ▶札幌在住の剣士を中心とした北海道剣道連盟交流団5名が、ノボシビルスクとモスクワで実技指導及び段位審査を行う。
- ▶ノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場バレエ団団長セルゲイ・クルプコ氏が来札。大杉洋子バレエアカデミー、久富淑子バレエ研究所にてバレエ講習会に参加。
- ▶ノボシビルスク市で5月に開催された日本語スピーチコンテスト優勝者2名が、札幌国際日本語学院の招待で1か月間日本語研修を受けるため来札。
- ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で、ノボシビルスク市少年交流団13名が来札。
- ▶札幌国際プラザ主催「北東アジア・米国学生集中講座」にノボシビルスク市の大学生1名が参加。
- 8月 ▶「第7回札幌カップ国際アイスホッケー競

技大会」に参加するため、ポートランド市とノボシビルスク市の少年チームが来札。

- ▶シベリア・北海道文化センターで行われた日本語スピーチコンテストの優勝者2名が、札幌国際日本語学院の招待で日本語研修を受けるため来札。
- ▶「国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業」(種目:男子サッカー)にポートランド市、ミュンヘン市、瀋陽市、ノボシビルスク市から参加。
- 11月 ▶「第33回全道ロシア語弁論大会」開催。

2002年(平成14年)

- 2月 ▶「第4回姉妹都市フェスティバル」開催
- 5月 ▶北海道剣道連盟がノボシビルスク市の2名を含む剣士14名を受け入れ、親善試合などを行う。
- 7月 ▶ノボシビルスク市で行われた日本語スピーチコンテストの優勝者2名が、札幌国際日本語学院の招待で日本語研修を受けるため来札。
▶北海学園大学の学生ら7名が、研修、学術交流のためノボシビルスク市内の大学を訪問。
▶札幌国際プラザ主催「北東アジア・米国学生集中講座」に、ノボシビルスク市の2名が参加。
▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で、札幌の少年少女訪問団13名がノボシビルスク市を訪問。
- 8月 ▶シベリア・北海道文化センターで行われた日本語スピーチコンテストの優勝者2名が札幌国際日本語学院の招待で、日本語研修を受けるため来札。
▶札幌市国際交流員として、ノボシビルスク市出身のマリーナ・ピリベンコさんが来札。
- 9月 ▶札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第12回ロシア語詩のつどい」開催
- 10月 ▶札幌の2名を含む道内の剣士8名が、ノボシビルスク市で開かれた全ロシア剣道大会で審判を務める。
- 11月 ▶ノボシビルスク市を拠点に活動する「デュオ・ロマノフ・クガエフスキー」のグランプリコンサートが札幌市で開催。

2003年(平成15年)

- 2月 ▶ 「第5回姉妹都市フェスティバル」開催。
- 4月 ▶ ロシア剣道連盟西シベリア支部長ら6名が来札し、札幌の剣友らと稽古。
- 6月 ▶ 北海学園大学で「日ロ国際シンポジウム」が開催され、シベリア国立交通大学学長ほか5名が参加。
 - ▶ ノボシビルスク市の学生3名が北海学園大学にて学生交流に参加。
 - ▶ ノボシビルスク市開基110周年記念行事に札幌市から福迫助役を団長とする訪問団7名及び北海道・ロシア文化協会の会員7名がノボシビルスク市を訪問。
 - ▶ シベリア・北海道文化センターにおいて、本谷内氏による姉妹都市札幌写真展示会開催。



ノボシビルスク開基110周年記念事業

- 7月 ▶ 「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」でノボシビルスク市の少年少女訪問団13名が来札。
 - ▶ 札幌国際プラザ主催「北東アジア・米国学生集中講座」に、ノボシビルスク市から2名が参加。
- 8月 ▶ シベリア・北海道文化センターで行われた日本語スピーチコンテストの優勝者2名と自費参加者2名が、札幌国際日本語学院の招待で日本語研修を受けるため来札。
 - ▶ 北海学園大学1名、大学院生2名がノボシビルスクの学生交流に参加。
- 9月 ▶ 北海道国際音楽交流協会(ハイメス)がノボシビルスク市で「ロシアにおける日本音楽指導と学術交流」を行い、講師3名を派遣。
 - ▶ 「国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業」で、札幌から男子サッカーチーム15名(ほか随行者4名)がノボシビルスク市を

訪問。

- ▶ 札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第13回ロシア語詩のつどい」開催。
- ▶ 北海道国際音楽交流協会(ハイメス)が第6回箏教授派遣、第7回日本歌曲教授派遣を行い、ノボシビルスク音楽学院にてセミナー及びコンサートを開催。
- 10月 ▶ 北海道剣道連盟5名がノボシビルスク市を訪問。同月開催の「第6回ロシア剣道大会」に向けて選手強化を行う。
- 11月 ▶ ノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場バレエ団が札幌で「コッペリア」を上演。

2004年(平成16年)

- 2月 ▶ シベリア・北海道文化センター館長ら2名が来札。
 - ▶ 「第6回姉妹都市フェスティバル」開催。併せて絵画コンクールに優勝したノボシビルスク芸術学校生徒の絵画15枚を展示。
- 5月 ▶ ノボシビルスク市ロシア剣道連盟シベリア支部より3名が来札し、稽古を通して市民と交流。
- 6月 ▶ 札幌・ノボシビルスク友好交流協会の文化交流団13名がノボシビルスク市を訪問し、日本文化セミナーを開催。
- 7月 ▶ シベリア・北海道文化センターで行われた日本語スピーチコンテストで入賞した学生3名が札幌国際日本語学院の招待で、日本語研修を受けるため来札。
 - ▶ 「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で、札幌の少年少女訪問団13名がノボシビルスク市を訪問。
 - ▶ ノボシビルスク市の学生3名が北海学園大学にて学生交流に参加。
- 8月 ▶ 「第8回札幌カップ国際アイスホッケー大会」出場のため、ノボシビルスク市のアイスホッケーチーム21名が来札。
 - ▶ 札幌地下街オーロラコーナーにて「姉妹都市パネル展」開催。
 - ▶ 札幌国際プラザ主催「北東アジア・米国学生集中講座」にポートランド市から1名、瀋陽市から4名、ノボシビルスク市から2名の学生が参加。
 - ▶ シベリア・北海道文化センターで行われた夏期

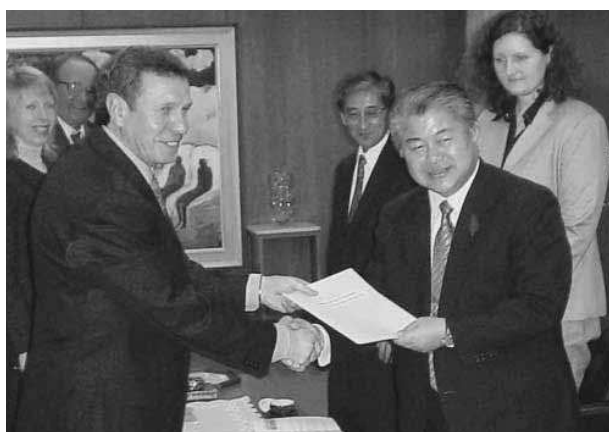
日本語集中講座に札幌市から教師 2 名が参加。

9月 ▶札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第14回ロシア語詩のつどい」開催。

▶北海道国際音楽交流協会（ハイメス）が第7回箏教授派遣、第8回日本歌曲教授派遣を行い、グリーンカ音楽院にてセミナー及びコンサートを開催。

10月 ▶北海道国際音楽交流協会（ハイメス）がノボシビルスク市で日本音楽の指導と学術交流のため講師 2 名を派遣。

▶ゴロデツキー・ノボシビルスク市長が来札し、上田札幌市長と市民間の交流促進について懇談。併せて世界冬の都市市長会への入会申請書が提出される。



世界冬の都市市長会入会申請書を受け取る札幌市長

11月 ▶ノボシビルスク国立オペラ・バレエ劇場バレエ団が「白鳥の湖」全4幕を札幌で公演。

12月 ▶北方音楽交流～MUSICA・織音第10回記念コンサートが開催され、瀋陽の琵琶奏者である劉剛氏、ノボシビルスクのドームラ奏者アンドレイ・クガエフスキー氏が出演。

2005年（平成17年）姉妹都市提携15周年

1月 ▶グリーンカ音楽院附属日本音楽文化センター長マリーナ・ドゥブロフスカヤ氏が「山田耕筰と日本近代音楽作曲家の作品」で音楽科学博士号を取得。

2月 ▶「第7回姉妹都市フェスティバル」及び「姉妹都市パネル展」を開催。

6月 ○姉妹都市提携15周年記念事業【札幌市→ノボシビルスク市】

札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携15周

年記念事業に出席するため、市長団4名及び議員団14名（6/22～6/28）、市民訪問団34名（6/18～6/26）がノボシビルスク市を訪問。約80名の両市関係者が見守る中、姉妹都市関係促進宣言の調印式が行われたほか、札幌をノボシビルスク市民に広く紹介するイベント「サッポロウィーク」の開催や様々な記念事業に参加。



15周年記念式典で調印した宣言書を披露する両市長

▶「第8回ロシア剣道大会」がノボシビルスク市にて開催。

▶シベリア・北海道文化センターにおいて札幌国際日本語学院学長による学院紹介セミナーを開催。

▶北海道国際音楽協会（ハイメス）主催「日ロ国際コンサート&セミナー」に出席するため、グリーンカ音楽院附属日本音楽文化センター長マリーナ・ドゥブロフスカヤ氏が来札。

▶ノボシビルスク市の学生3名が北海学園大学にて学生交流に参加。

7月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」でノボシビルスク市の少年少女訪問団13名が来札。

7月～8月 ▶ノボシビルスク市民4名が札幌国際日本語学院に短期留学。

8月 ▶札幌国際プラザ主催「北東アジア北米学生集中講座」にノボシビルスク市から2名の学生が参加。

▶札幌市国際交流員として、ノボシビルスク市出身のアンナ・サヴィヌィフさんが来札。

9月 ○姉妹都市提携15周年記念事業【ノボシビルスク市→札幌市】

札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携15周年記念事業に出席するため、ノボシビル

スク市長団 5 名 (9/11 ~ 9/14) が来札。

記念式典・祝賀会や市役所 1 階ロビーでノボシビルスク市を紹介するパネル展を行ったほか、ゴロデツキー市長自ら講師を務めた「ノボシビルスク都市セミナー」開催。



都市セミナーで講演するノボシビルスク市長

なお、10 月にはノボシビルスク市民訪問団 27 名 (10/25 ~ 11/2) 及びノボシビルスク議員訪問団 5 名 (10/27 ~ 11/1) が来札。日本文化の体験や施設見学など様々な交流事業に参加。

- ▶ ノボシビルスク市民 2 名が札幌国際日本語学院に留学。
- ▶ 札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携記念「第 15 回ロシア語詩のつどい」開催。
- ▶ 札幌・ノボシビルスク友好交流協会の文化交流団 13 名がノボシビルスク市を訪問し、日本文化セミナー及び琵琶コンサートを開催。
- ▶ ノボシビルスク市ロシア剣道連盟シベリア支部より 1 名が来札し、稽古を通して市民と交流。
- 10 月** ▶ 北海学園大学主催「第 4 回日ロ国際シンポジウム」に出席するため、各大学の学長や学科長 7 名 (ノボシビルスク国立大学 2 名、シベリア国立交通大学 3 名、サハリン大学 2 名) が来札。
- ▶ ノボシビルスク市ロシア剣道連盟シベリア支部長ら 3 名が来札。
- ▶ 北海学園大学 2 名が約 2 カ月間ノボシビルスク市の学生交流に参加。

2006 年 (平成 18 年)

- 1 月** ▶ ノボシビルスク市で開催している「第 6 回シベリア雪像フェスティバル」に参加するため、

札幌市職員 3 名がノボシビルスク市を訪問。「獅子舞」をテーマに特別賞を受賞。

- 2 月** ▶ 「第 33 回国際雪像コンクール」に参加するため、ノボシビルスク市ツェントラリヌイ区長を含む 3 名が来札。「シベリアのプリンセス」をテーマに製作。



国際雪像コンクールに出場したノボシビルスクチーム

- ▶ ノボシビルスク市中央文化会館教師 1 名が児童会館などの視察のため来札。
- ▶ 「第 8 回姉妹都市フェスティバル」開催。
- 5 月** ▶ シベリア・北海道文化センター 10 周年を記念して、北海道・ロシア文化協会会長をはじめ 7 名の訪問団がノボシビルスク市を訪問。
- 6 月** ▶ シベリア・北海道文化センターの日本語・文化コンサルタントとして札幌・ノボシビルスク友好交流協会会長がノボシビルスク市に長期滞在。
- 7 月** ▶ 札幌で開催された「札幌国際カップアイスホッケー大会」にノボシビルスク少年アイスホッケーチーム 22 名 (役員 5 名含む) が参加。札幌、カナダおよび韓国のチームと対戦。
- ▶ 「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で、札幌の少年少女訪問団 13 名がノボシビルスク市を訪問。
- ▶ ノボシビルスク剣道訪問団 6 名が来札。札幌の剣道団体と交流。
- 8 月** ▶ シベリア・北海道文化センター主催「ノボシビルスク市民と学生を対象とした日本文学講座」の講師として、札幌・ノボシビルスク友好協会より 1 名がノボシビルスク市を訪問。
- 9 月** ▶ ノボシビルスク剣道訪問団 2 名が、札幌と旭川を訪問。両市の剣道団体と交流。
- ▶ グリンカ音楽院の創立 50 周年記念行事週間に参加するため、北海道国際音楽交流

協会（ハイメス）の呼びかけによるロシア訪問友好男声合唱団 44 名がノボシビルスク市で演奏会を開催。

- 10月 ▶日本ユーラシア協会札幌支部の主催で、ノボシビルスク市からタチヤーナ・ヴァラシュツォーフ氏が来札し、札幌コンサートホール kitara にてコンサートを開催。
- 11月 ▶ノボシビルスク市の美術養成所指導講師関係者 3 名が来札。「ロシアを知るセミナー」を開催。
▶「MUSICA・織音 10th YEAR メモリアルコンサート」にノボシビルスク市と瀋陽市の音楽家が参加。

2007年(平成19年)

- 3月 ▶JICA 札幌及び札幌国際プラザ主催「国際協力文化祭」で、ノボシビルスク市からの留学生が札幌市について紹介。
- 4月 ▶シベリア・北海道文化センターのスピリドノフ館長が北海道・ロシア文化協会総会及び札幌姉妹都市協会総会に出席するために来札。札幌市長を表敬訪問。
- 7月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」でノボシビルスク市の少年少女訪問団 13 名が来札。
- 8月 ▶シベリア・北海道文化センターで開催された「夏期日本語・文化集中講座」に、北海道日本語ネットワーク所属日本語教師 1 名を札幌から派遣。

2008年(平成20年)

- 2月 ▶ノボシビルスク市剣道団 8 名が剣道、居合道、杖道の稽古、講習会、昇段試験のために来札。
- 3月 ▶ノボシビルスク市校長会会長イリーナ・ミフノ氏を団長とするノボシビルスク教育関係者代表団計 8 名が来日。市内の小中学校を視察したほか、団長を講師として「ノボシビルスクを知るセミナー」を開催。
- 5月 ▶ノボシビルスク市で「西シベリア日本語弁論大会」開催。
- 6月 ▶国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業の一環として、「ノボシビルスク市創立 115 周年記念夏季国際子どもシベリア大会」に札幌の中学生からなる男子バレーボール選手団が参加。

- 7月 ▶シベリア・北海道文化センターの日本語教室に通うノボシビルスク日本語青年訪問団 13 名が来札。
▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で、札幌の少年少女訪問団 13 名がノボシビルスク市を訪問。
- 8月 ▶シベリア・北海道文化センター主催「日本語講座夏期講習会」に北海道日本語教育ネットワーク会員の日本語講師 1 名を派遣。
▶札幌市国際交流員として、ノボシビルスク市出身のイリーナ・シュクリナさんが来札。
▶「第 10 回札幌カップ国際アイスホッケー競技大会」にノボシビルスク市からアイスホッケーチーム (21 名) が参加。
▶北海道国際音楽協会（ハイメス）の創立 20 周年記念コンサート出席のため、フォードロフ・ノボシビルスク市副市長をはじめとする訪問団 5 名が来札。
- 10月 ▶札幌マラソン大会にノボシビルスク市より 3 名からなるマラソンチームが参加。

2009年(平成21年)

- 4月 ▶ノボシビルスク国立大学とシベリア国立交通大学から各 3 名の学生が、3 カ月間、北海学園大学で学ぶために来札。
- 7月 ▶シベリア・北海道文化センターの日本語教室の生徒であるノボシビルスク日本語青年訪問団が来札。
▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」でノボシビルスク市の少年少女訪問団 12 名が来札。
- 8月 ▶シベリア・北海道文化センター主催「夏期日本語・文化集中講座」に北海道日本語教育ネットワーク会員の日本語講師 1 名を派遣。
- 9月 ▶姉妹都市提携記念「第 19 回ロシア語詩のつどい」を開催。

2010年(平成22年) 姉妹都市提携 20周年

- 2月 ▶「さっぽろ雪まつり国際雪像コンクール」にノボシビルスク市から 2 名が参加。
- 6月 ○姉妹都市提携 20 周年記念事業 [札幌市→ノボシビルスク市]
札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携 20 周年記念事業に出席するため、市長団 5 名

及び議員団7名(6/22～6/29)、市民訪問団52名(6/22～6/28)のほか、よさこいソーランチーム20名がノボシビルスク市を訪問。姉妹都市関係促進宣言の調印式が行われたほか、創建記念日「まちの日」記念大コンサートや様々な記念事業に参加。



20周年記念式典で記念品を交換する両市長

▶北海道国際音楽交流協会(ハイメス)・グリーンカ音楽院共同コンサートがノボシビルスク市にて開催

7月 ▶「札幌・ノボシビルスク少年交流事業」で、札幌の少年少女訪問団12名がノボシビルスク市を訪問。

▶ノボシビルスク第22リセー小学校の親子10名が来日し、施設見学、ホームビジット、小学校との交流などを行う。

▶シベリア・北海道文化センター主催の日本語教室の生徒であるノボシビルスク日本語青年訪問団が来札。

8月 ○姉妹都市提携20周年記念事業[ノボシビルスク市→札幌市]

札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携20周年記念事業に出席するため、ノボシビルスク市長団5名(8/5～8/7)が来札。



表敬訪問で挨拶を交わす両市長

記念式典・祝賀会やノボシビルスク市を紹介するパネル展を大通ビッセで開催したほか、札幌商工会議所との懇談会などを実施。

▶札幌国際プラザと日本ユーラシア協会札幌支部との共催により「第20回ロシア語詩のつどい」開催。

▶札幌国際プラザと北海道国際音楽交流協会(ハイメス)との共催により「プーシキンの誌の朗読と音楽の夕べ」を開催。

11月 ▶ノボシビルスク州立人形劇場の団員4名が来札し、札幌市こどもの劇場やまびこ座で公演。

2011年(平成23年)

2月 ▶「さっぽろ雪まつり国際雪像コンクール」にノボシビルスク市から3名が参加。

7月 ▶「姉妹都市少年交流事業」で、ノボシビルスク市の少年少女訪問団10名が、両市の姉妹都市である大田広域市の少年少女訪問団と共に来札。

8月 ▶札幌市国際交流員として、ノボシビルスク市出身のマキシム・サゾノフさんが来札。

10月 ▶2010年に姉妹都市となった大田広域市の提案により、双方の姉妹都市であるノボシビルスク市を加えた3都市の研究機関、大学関係者等を対象として「第1回科学都市シンポジウム」を大田広域市で開催。



第1回科学都市シンポジウムのようす

2012年(平成24年)

2月 ▶「さっぽろ雪まつり国際雪像コンクール」にノボシビルスク市から3名が参加。

5月 ▶北海道・ロシア文化協会設立20周年記念祝賀会出席のため、ノボシビルスク市デルジャヴェツ文化部長とシベリア・北海道文化

センター・スピリドノフ館長が来札。札幌市長を表敬訪問。

- 7月 ▶ 「姉妹都市少年交流事業」で、札幌の少年少女訪問団10名が、両市の姉妹都市である大田広域市の少年少女と共にノボシビルスク市を訪問。
- ▶ シベリア・北海道文化センター主催の日本語教室の生徒であるノボシビルスク日本語青年訪問団9名が来札。
- ▶ 札幌市役所1階ロビーにてノボシビルスク市の子供たちによる絵画展を開催。



ノボシビルスクの子供たちによる絵画展

- 10月 ▶ 札幌市、ノボシビルスク市および大田広域市の3都市の研究機関、大学関係者等を対象として、ノボシビルスク市で「第2回科学都市シンポジウム」を開催。

2013年(平成25年)

- 6月 ▶ ノボシビルスク市開基120周年記念行事に、生島副市長を団長とする札幌市訪問団4名がノボシビルスク市を訪問。
- ▶ 札幌武蔵野美術学院の主催により、ノボシビルスク市立美術センターにおいて「サッポロ未来展 in Russia」が開催され、北海道内の若手芸術家の作品が展示される。併せて、札幌武蔵野美術学院とノボシビルスク国立芸術専門学校との間で、短期留学等の学生交流や展示会開催等に関する「学校提携調印式」が行われる。
- ▶ 「国際親善ジュニアスポーツ姉妹都市交流事業」の一環として、ノボシビルスク市にて開催された「スポーツ・芸術・知性国際子ども大会」の柔道種目に札幌市内在住の中



柔道選手団と札幌市訪問団

- 7月 ▶ 「姉妹都市少年交流事業」で、札幌の少年少女訪問団10名とノボシビルスク市の少年少女訪問団が、両市の姉妹都市である大田広域市を訪問。
- ▶ シベリア・北海道文化センター主催の日本語教室の生徒であるノボシビルスク日本語青年訪問団7名が来札。
- 10月 ▶ 「第38回札幌マラソン大会」にノボシビルスク市からのマラソンチーム4名が参加。
- 11月 ▶ 札幌市、ノボシビルスク市および大田広域市の3都市の研究機関、大学関係者等を対象として、札幌市で「第3回科学都市シンポジウム」を開催。

2014年(平成26年)

- 4月 ▶ ゴロデツキー前市長の辞職に伴う市長選の結果、アナトーリー・ローコチ氏が市長に当選し、同月就任。
- 7月 ▶ シベリア・北海道文化センター主催の日本語教室の生徒であるノボシビルスク日本語青年訪問団7名が来札。
- 8月 ▶ 「姉妹都市少年交流事業」で、ノボシビルスク市の少年少女訪問団10名が、両市の姉妹都市である大田広域市の少年少女訪問団と共に来札。
- ▶ 札幌市国際交流員として、ノボシビルスク市出身のマリナ・ラケーワさんが来札。
- 12月 ▶ ノボシビルスク国立経済・経営大学の教員1名と学生10名が、札幌圏の大学(札幌大学、北海学園大学、小樽商科大学)との交流を目的として来札。

2015年(平成27年) 姉妹都市提携25周年

6月 ○姉妹都市提携25周年記念事業[札幌市→ノボシビルスク市]

札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携25周年記念事業に出席するため、市民訪問団22名(うち、市職員2名)がノボシビルスク市を訪問(6/23～6/30)。「姉妹都市間友好と協力の促進に関する宣言」の調印式のほか、創建記念日「まちの日」記念式典や様々な記念事業に参加。

7月 ▶「姉妹都市少年交流事業」で、札幌の少年少女訪問団8名が、両市の姉妹都市である大田広域市の少年少女と共にノボシビルスク市を訪問。



姉妹都市少年交流事業に参加した3都市の少年少女

▶シベリア・北海道文化センター主催の日本語教室の生徒であるノボシビルスク日本語青年訪問団7名が来札。

9月 ▶日本ユーラシア協会札幌支部の主催により、姉妹都市提携25周年記念「第25回ロシア語詩のつどい」を在札幌ロシア連邦総領事館において開催。

10月 ▶姉妹都市提携25周年を記念したグリーンカ音楽院主催「日露音楽コンサート」に、ソプラノ歌手松井亜樹さんとピアニストの高橋健一郎さんが招待され、ノボシビルスク市を訪問。

○姉妹都市提携25周年記念事業[ノボシビルスク市→札幌市]

札幌・ノボシビルスク姉妹都市提携25周年記念事業に出席するため、ローコチ・ノボシビルスク市長を団長とするノボシビルスク市訪問団5名が来札。(10/13～10/17)

15日に札幌全日空ホテルにて、記念式典と記念祝賀会を開催。

12月 ▶北海道国際バレエ・ダンスカンパニーの主催により、姉妹都市提携25周年記念公演「くるみ割り人形」を教育文化会館で開催。

～シベリア抑留者の心を癒したピアノ～

ノボシビルスクで、かつて日本人収容所にあったと思われるピアノが2007年頃に見つかりました。詳しい経緯は不明ですが、ノボシビルスク州の隣、ケメロボ州の日本人捕虜収容所で働いていた人が亡くなる時に「日本人に返してほしい」と孫に言い残したことから、その孫からの申し出で、1997年にノボシビルスクにあるシベリア・北海道文化センターに持ち込まれ保管されていたものです。

このピアノの製造ナンバーによると、日本楽器製造(現ヤマハ)製で1935年から1936年に日本国内で製造されたものでした。

「日ロ友好の一助に」とヤマハが協力し、修理され、同センターが主催する式典でその音色を響かせました。